

基本目標 1. すべての子育て家庭を支える環境づくり	主要課題 (1)地域での子育て支援サービスの充実	施策の方向 ①すべての家庭に対する子育て支援サービスの充実
----------------------------	--------------------------	-------------------------------

「施策の方向」の評価

乳児家庭全戸訪問については、関係機関との連携により、支援が必要な家庭を見逃さずに支援の導入を図ることができた。ショートステイ、ファミリーサポートセンター、出前型一時保育や子育て支援総合センターの一時預かり、幼稚園の預かり保育については、利用者が増加している。一方、トワイライトステイは利用に至らず、制度運用の見直しが必要である。私立保育園の一時預かりについても量的充実を図ることにつながっていないことから、要件の検討が必要である。

茨木市次世代育成支援行動計画(後期)掲載内容							
ページ(報告書)	事業	内容	行動目標	平成24年度の取り組みと実績	平成24年度の取り組みと実績の評価(効果及び課題)	今後の改善方法	担当課
53	乳児家庭全戸訪問	生後4か月までの乳児のいる家庭を訪問し、親子の心身の状況や養育環境等を把握するとともに、育児に関する助言及び子育て支援に関する情報等の提供を行います。	継続	生後4か月までに家庭を全戸訪問 親子の様子を観察 子育て相談 子育てに関する情報提供 訪問完了家庭人数 2,561人 母子保健との連携	昨年度に引き続き、保健医療課との連携を持ち、重点訪問を行った。 必要に応じて積極的に適切な関係機関との同伴訪問等を行うとともに、支援が必要な家庭を見逃さず支援の導入を図った。	早期に保護者と相談できる環境を作ることが、児童虐待のひとつの予防につながることも、継続して実施する。	子育て支援課
54	ショートステイ	保護者の病気や出産などで子どもの養育ができない場合、児童養護施設と連携し、緊急に対応します。	継続	市内3か所の児童養護施設で実施 利用世帯数、利用者数 11世帯16人 利用日数 57日	8月からレスパイトでの利用可能(年3回限度)になり、利用件数が増えた。 必要書類に費用がつかからない書類でも可能にしたため、利用者の負担は軽減された。	ホームページや広報だけでなく、様々な機会に周知を図る。	子育て支援課
54	トワイライトステイ	保護者の仕事などが恒常的に夜間にわたる家庭の子どもを児童養護施設と連携して預かります。	継続	市内3か所の児童養護施設で実施 利用件数 0件	問合せ件数は増えたが、施設までの送迎困難や要件に「恒常的」とあるため、利用には至らない。	ファミリー・サポート・センター事業の活用もしながら、利用しやすい事業を目指す。	子育て支援課
54	ファミリー・サポート・センター	地域で育児の手助けをしてほしい依頼会員と手助けをする援助会員の相互援助活動により、仕事と子育ての両立を支援します。	継続	説明会51回(うち出張説明会3回)参加者324人、個人説明6人、1日コース13回 講習会28回 参加者267人(うち出張講習会3回) 研修会6回 参加者157人 交流会7回 参加者151人 活動件数 6,433件 新規依頼件数 211件	・ホームページの更新により、より多くの市民が入会しやすいよう情報提供を図った。それにより、ホームページを通じての問合せや申し込みが目立った。 ・広報誌配布前に定員に達してしまうことのないよう入会説明会開催日の設定を行い、参加につながった。 ・会員登録前に定員に達してしまうことのないよう入会説明会開催日の設定を行い、参加につながった。 ・会員整理(開設当初からの休会者対象)を行い、稼働会員の把握につながった。しかしながら、援助、両方会員の登録者が大幅に減少することにもなった。	・研修会や北摂各市との情報交換会等へ出席することにより、コーディネーターの資質向上を図り、依頼会員と援助会員との丁寧なマッチングに努める。 ・会員整理における、援助・両方会員の大幅な登録者数減を受け、最も効率の良い情報発信ツールを使って広報活動を進めるうえで、入会意欲が増すようなチラシ作成や、魅力ある研修及び交流会を打ち出す。	子育て支援課
54	産前・産後ホームヘルパー派遣	産前・産後、体調不良のため家事や育児が困難な家庭や、多胎児を出産した家庭等にホームヘルパーを派遣します。	継続	利用件数 20件	利用件数は、前年比で1件減少した。委託先事業所の協力により、派遣希望日等について概ね利用者の希望に添うことができた。	派遣ヘルパーの資質向上を図りながら、継続して実施する。	子育て支援課
54	出前型一時保育	子育て世代が、市主催の講演会や審議会等へ参加できるように、保育ボランティアを派遣して一時的に子どもを預かります。	継続	申請件数 1,060件 派遣実績 920件 保育人数 2,871人	申請件数は前年比で、747件(238.7%)増。 派遣実績は644件(233.3%)増。 保育人数は1,354人(89.2%)の増となった。 平成24年4月から児童発達支援事業所の「ばら教室」が障害福祉センター内に移転したことに伴い派遣場所に加えたことによるものであり、開催について効果が上がっている。 派遣先の増加に伴うボランティアの確保が課題となっている。	必要に応じて新規ボランティアの募集を行い、継続して実施する。	子育て支援課

茨木市次世代育成支援行動計画(後期)掲載内容							
掲載ページ	事業	内容	行動目標	平成24年度の取り組みと実績	平成24年度の取り組みと実績の評価 (効果及び課題)	今後の改善方法	担当課
54	一時預かり(一時保育)	保護者の急な外出や病気のため、家庭で子どもの保育ができない場合など、一時的に子どもを預かります。	量的充実	(子育て支援総合センター) 利用者数 2,247人 登録申請者数 744人	保育の空き状況をホームページにアップすることにより、予約状況が把握しやすくなった。	・予約方法の変更(利用日の1か月前)、定員を10から13人に増やす、利用回数を6回から4回にすることにより、より多くの人が利用できるようにする。 ・つどいの広場等でも一時保育を実施していることの周知を図る。	子育て支援課
54	一時預かり(一時保育)	保護者の急な外出や病気のため、家庭で子どもの保育ができない場合など、一時的に子どもを預かります。	量的充実	私立保育園19か所で実施した。	一時的な子どもの預かりに効果があったが、一時預かり保育事業の実施には一定の条件を満たす必要があり、量的充実を図ることにつなげていない。	国の一時預かり保育事業を実施するためには、保育士や専用スペースの確保、定款の変更が必要となるが、施設毎の要件該当性を検討し、量的充実に向けた方策を研究する。	保育課 (現:保育幼稚園課)
54	幼稚園の預かり保育	保護者の希望によって、通常の教育時間を超えて行う預かり保育を実施します。	量的充実	利用者数 延べ25,948人	月額利用制度が浸透してきたため、利用者数は前年比で3,432人の増加となった。	預かり保育のニーズが高いことから、引き続き事業を継続する。	教育政策課 (現:保育幼稚園課)

基本目標 1. すべての子育て家庭を支える環境づくり	主要課題 (1)地域での子育て支援サービスの充実	施策の方向 ②各種相談機能・情報提供の充実
----------------------------	--------------------------	-----------------------

「施策の方向」の評価

保健医療課が実施する子育て相談・栄養相談、教育センターが実施する教育相談について、件数が増加しており、相談のニーズは高くなっている。言語障害児教育相談においては、巡回心理判定員との連携による指導も行われるなど、各機関とも相談窓口の充実に努めるとともに、関係機関との連携に取り組んでいる。一方、子ども本人からの相談は少なく、第三者相談にも焦点をあてた周知の検討が必要である。

茨木市次世代育成支援行動計画(後期)掲載内容							
掲載ページ	事業	内容	行動目標	平成24年度の取り組みと実績	平成24年度の取り組みと実績の評価 (効果及び課題)	今後の改善方法	担当課
54	子育てに関する相談	子育て・しつけ・発達などについて、電話・面接による相談を実施します。相談内容に応じ、専門的機関につなげられるよう関係機関との連携を図ります。	継続	・相談者の負担感・不安感に寄り添い、電話や面接・訪問等で話を傾聴。また、負担感・不安感の軽減のために対応と一緒に考えていく。 ・総相談件数 751件(電話相談407件、面接相談344件)	電話やメール相談から面接相談に繋いだり、発達に関する相談の時には、他機関を紹介したり、保護者の了解をもらい、連携をとった。	継続して実施する。	子育て支援課
54	子育てに関する相談	子育て・しつけ・発達などについて、電話・面接による相談を実施します。相談内容に応じ、専門的機関につなげられるよう関係機関との連携を図ります。	継続	電話・面接による乳幼児の育児・しつけ・発達・保健(予防接種等)の相談を実施した。 電話による相談 5,082件 面接による相談 1,089件	前年度と比較し、電話相談、面接相談ともに増となっている。面談相談において、顔の見える対応が増えたことは意義がある。	引き続き、市民が相談しやすい窓口になるよう努める。	保健医療課
54	子育てに関する相談	子育て・しつけ・発達などについて、電話・面接による相談を実施します。相談内容に応じ、専門的機関につなげられるよう関係機関との連携を図ります。	継続	子育て中の保護者を対象に子どもに関する電話相談等を実施した。 子どもに関する電話相談等10件 子どもに関する面接相談等29件	男女共同参画の視点から、子育てに関するさまざまな悩みについて、面接及び電話相談を実施した。相談を進める中で、DVや児童虐待、女性としての生き方の悩みなど相談内容がさまざまな領域に広がる場合が多い。	複雑・多岐にわたる相談への対応や、DV被害者の支援のため、引き続き相談員のレベルアップを図るとともに、関係機関との連携を深めていく。	人権・男女共生課
54	栄養相談	乳幼児期の食事と栄養等について正しい知識の普及を図ります。	継続	栄養士による相談を実施した。 栄養相談件数 66件 1歳8か月児健康診査時栄養相談 166件 3歳6か月児健康診査時栄養相談 62件	前年度とほぼ同等の件数となっている。	引き続き、市民が相談しやすい窓口になるよう努める。	保健医療課
54	保健相談	乳幼児の保護者に対し、乳幼児の心身の健康と育児や予防接種等の相談を実施します。	継続	乳幼児の保護者に対する子育てに関する相談を随時実施した。 電話による相談 550件 面接による相談 23件	前年度と比較し、電話相談は50件の減、面接相談は7件の減となった。	引き続き、市民が相談しやすい窓口になるよう努める。	保健医療課
55	教育相談	児童、生徒の学習、性格、行動、身体、発達、進路等の教育に関する、電話・面接による相談を実施します。	継続	電話相談件数 230件(保護者、児童・生徒) 面接相談(心理的な問題の解決と援助)件数 116件 相談回数 のべ2024回(保護者、児童・生徒)	電話相談(対H23)は ほぼ変化なく取り組んでいる。 面接相談(対H23)件数+39.75%のべ件数+60.2% 相談ニーズは年々増えている。学校とのケース会議も年間20回を越え、連携して対応することができた。	・市民への周知を図り、利用しやすい窓口として充実に努める。 ・相談受付後、迅速に対応できるように工夫する。また、必要に応じて学校とケース会議を行うなどの連携をより一層強化し、児童生徒の心理的な問題解決を進める。	教育センター

茨木市次世代育成支援行動計画(後期)掲載内容							
掲載ページ	事業	内容	行動目標	平成24年度の取り組みと実績	平成24年度の取り組みと実績の評価 (効果及び課題)	今後の改善方法	担当課
55	子ども本人からの相談	子ども本人からのいじめ等の悩み相談を実施します。	継続	小学生2人 中学生0人	・子ども自身の相談は、カードを配った時には数件あるが、他の時期は少ない。特に、保護者からの相談は多いのに、子ども本人からの相談は少なく、課題が見えている。	・スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラー等も身近な相談窓口として活用しながら、子どもへの周知を徹底し、利用しやすい窓口として充実を図る。 ・いじめを受けているという相談だけでなく、第三者の相談にも焦点を当てて、学校での周知を進めていく。	教育センター
55	言語障害児教育相談	ことばの遅れ、吃音、言語障害などことばの問題についての相談・指導を実施します。	継続	就学前の6歳児を主に継続的に指導を行った。(119件、のべ1040回)その中で発達障がいのある幼児への指導も増えている。また、電話相談が14件あった。	参加人数は18件(+17.8%)、また、指導回数も183(+21.3%)回増加した。公立幼稚園から紹介されることが増え、巡回心理士と情報交換して指導にあたることができた。	・市民への周知を図り、利用しやすい窓口として充実に努める。 ・相談受付後、待機待ち解消に努めるため迅速に対応できるように工夫する。また、私立幼稚園や保育園、関係機関との連携をより一層強化する。	教育センター
55	女性・男性のための相談	性別に関わる悩みや不安等に幅広く対応できるよう相談を実施します。	継続	女性を対象に、各種相談業務を実施した。 女性・電話・DV・法律相談等 相談件数2,169件 男性電話 相談件数16件	女性が抱える悩みや不安等女性全般に関わる相談に幅広く対応できる窓口として、女性相談、DV相談、法律相談等の相談業務の充実や、関係機関との連携を図っている。また、女性の起業、転職、再就職、地域活動など様々な分野でのチャレンジ支援のため、専門家による女性の生き方と自立に関する相談を実施した。	複雑・多岐にわたる相談への対応や、DV被害者の支援のため、引き続き相談員のレベルアップを図るとともに、関係機関との連携を深めていく。	人権・男女共生課
55	子育てに関する情報発信	保育サービスや子育て支援に関する情報を掲載した冊子を作成・配布します。ホームページでも積極的に情報を発信します。	継続	子育てハンドブック(情報編)1万部印刷・発行。 母子健康手帳交付時に子育てハンドブック(情報編)および(育児編)を配布。 子育てハンドブック・つどいの広場情報・子育て支援団体イベントカレンダー等、ホームページで配信。 子育て支援総合センター情報誌「KoKoねっと」を年4回(1,600部)発行。各機関での配信。	一時保育の予約状況がホームページや携帯電話から検索できるようにした。 子育て支援団体連絡会(西地区)に於いて地域の子育てマップを作成、配布した。	継続して実施する。	子育て支援課

基本目標 1. すべての子育て家庭を支える環境づくり	主要課題 (1)地域での子育て支援サービスの充実	施策の方向 ③親子交流の場の充実
----------------------------	--------------------------	------------------

「施策の方向」の評価

各事業において実施回数や実施曜日等の見直しにより参加者は概ね増加しており、父親を含む親同士の交流の機会となるなど効果が上がっている。一方、小学生を対象とした青少年センター各種講座については、幅広い体験活動の場の提供が求められる。

茨木市次世代育成支援行動計画(後期)掲載内容							
掲載ページ	事業	内容	行動目標	平成24年度の取り組みと実績	平成24年度の取り組みと実績の評価 (効果及び課題)	今後の改善方法	担当課
55	7・8か月児親子交流	7・8か月の子どもと保護者同士の交流を深める場を提供します。	継続	・開催場所18カ所 年間参加人数 親708人 子712人	開催場所やポスター掲示場所等再度検討するとともに、乳児家庭全戸訪問時や「あかちゃんあそび」の開催時においても積極的に周知を行なった。開催回数を減らし、交流に適した集客を図った。開催場所によっては、交流に適した人数が集まらないところもあるためより一層の周知が必要である。	継続して実施する。より有効に展開できるよう、開催場所・開催日時を調整をしていく。子育て支援団体連絡会のイベントカレンダー等周知できるものを有効に活用する。	子育て支援課
55	地域子育て支援拠点事業	保育所や幼稚園に通っていない子どもと保護者が、気軽に集い、自由に遊べる場を提供します。	量的充実	kokoくらぶ…………… 277組 子育て講座…………… 97組 わくわくびっくろ箱…………… 120組 あそびの広場…………… 1,508組 だっこひろば…………… 563組 作って遊ぼう…………… 475組	だっこひろば(乳児向き)に加え、今年度からあまえんぼひろば(就学前まで)を設けた。わくわくびっくろはこの回数を増やした。	継続して実施する。	子育て支援課
55	保育所地域開放	保育所を開放し、在宅の親子と保育所の子どもたちや地域の人々との交流を促進します。家に閉じこもりがちな子育てをする保護者への支援を図ります。	質的充実	「とみだち広場」と称して10カ所の保育所で地域開放を年間521回実施。年間の利用者総数は8,731人。その中で子育て相談件数は、174件である。	利用した保護者が同年齢の子どもの様子や、今後の成長に合わせた関わりを実際に見れる取組として今後も実施していく。また、気象状況による中止や、感染症発症等の周知の徹底などその方法も、各保育所で取組み、利用者理解を得ている。	保護者の相談窓口にもなり、子育てについて気兼ねなく職員に相談できる取組である。今後も場所や職員配置など課題はあるが実施していく。	保育課 (現:保育幼稚園課)
55	赤ちゃんと保護者のつどい	2～3か月の乳児をもつ先輩ママが妊婦に情報提供をしたり、育児に関する悩み等を話し合ったり、友だちづくりをするなど、交流を図る場を提供します。	継続	2・3か月(休日版は2～6か月)の乳児及び保護者を対象に実施した。 平日版 実施回数 24回 参加者数 905人 休日版(通称:育メンのつどい) 実施回数 4回 参加者数 207人	平日実施に加え、土・日曜日に父親を中心に開催することにより、家族としての交流を深めることができた。	引き続き、友達づくりや交流の場として実施する。	保健医療課
55	ローズWAM各種親子交流	就学前児童と保護者がリズム遊びや手遊び等で楽しく遊ぶ機会を提供します。	継続	6か月から1歳6か月の子どもと保護者を対象に「よちよちはいはい講座」を実施した。開催回数 6回、参加者 371人 1歳から就学前の子どもと保護者を対象に「親子でたのしく遊ぼう」を実施した。開催回数 6回 参加者 281人	親子で、リズム遊びや手遊び等で遊ぶ機会の提供や、絵本の読み聞かせ等を通して、親同士の交流の機会をもつことができた。	「ワークライフバランスの推進」や「女性のチャレンジ支援」等男女共同参画推進のための子育て中の親支援事業を、関係機関と連携して実施していく。	人権・男女共生課
55	幼稚園地域開放	幼稚園を開放し、在宅の親子と幼稚園の子どもたちや地域の人々との交流を促進します。家に閉じこもりがちな子育てをする保護者への支援を図ります。	量的・質的充実	園舎・園庭開放を市立13園で132回実施 参加人数 延べ6,959人 夏期園庭開放 市立幼稚園8園で80回実施 参加人数 延べ834人	参加人数が昨年比で601人増加となった。核家族化・少子化が進展する中で、在宅の親子と園児、地域の人々との交流を促進することができた。	・幼児が安心して安全に遊べる機会を増やすため、実施回数を増やすとともに、内容の工夫をする。 ・市立12園で120回実施予定 ・夏期園庭開放については6園において90回実施予定	教育政策課 (現:保育幼稚園課)

茨木市次世代育成支援行動計画(後期)掲載内容							
掲載ページ	事業	内容	行動目標	平成24年度の取り組みと実績	平成24年度の取り組みと実績の評価 (効果及び課題)	今後の改善方法	担当課
56	青少年センター各種講座	上中条青少年センター主催事業として、市内全域で土曜日講座・イベントを実施します。	継続	主に小学生を対象として、子どもセミナーを実施した。 実施回数 31回、参加者444人	「ものづくり」を中心に実施した。低学年から高学年まで幅広い学年の参加があった。	今後も、子どもたちが豊かな体験をする機会の提供に向けて、事業をすすめていく。	青少年課

基本目標 1. すべての子育て家庭を支える環境づくり	主要課題 (2)子育て支援ネットワーク化の推進	施策の方向 ①家庭教育支援の充実
----------------------------	-------------------------	------------------

「施策の方向」の評価

家庭教育に関する各種講座については、保護者ニーズの把握に努めた結果、参加者が増加しており、効果が上がっている。また、ブックスタートについては、絵本の選定等にも目を配りながら継続して取り組む必要がある。

茨木市次世代育成支援行動計画(後期)掲載内容							
掲載ページ	事業	内容	行動目標	平成24年度の取り組みと実績	平成24年度の取り組みと実績の評価 (効果及び課題)	今後の改善方法	担当課
56	親支援プログラムの実施	子どもをもつ保護者が参加者同士で悩みや関心のあることを話し合いながら、子育てについて学び合う学習会を実施します。	継続	1回目12人(申込19人) 2回目12人(申込20人) 3回目12人(申込23人) 各回定員12人	市民ファシリテーターのメンバーがファシリテーターの資格取得のためのセッションを実施。今年度でファシリテーター養成講座を受けたすべてのメンバーが初回のセッションを終了する。	親支援プログラムのファシリテーターの資格を取得した方で、ファシリテーターバンクに登録して活動をしてもらえる方を2人ずつペアにして、来年度の親支援プログラム(ノーバディズパーフェクトプログラム)は実施していく。24年度は3回実施→25年度は4回実施を予定している。また実施場所は総合センターだけでなく、市内の公共施設での実施を計画している。	子育て支援課
56	子育て支援総合センター各種講座	就学前児童の保護者を対象に、乳幼児の生活リズム・家庭での事故防止等をテーマに講座を実施します。	継続	知って得する子育て講座: 開催回数 22回、参加人数 395人 出前版 知って得する子育て講座: 開催回数 9回、参加人数 131人	ニーズの高い内容を出前型でも開催することによって、出前講座の参加人数が増えた。	ニーズの高い内容の講座回数を増やし実施する。 出前版講座の市民への周知方法や開催場所を検討し、参加人数の増加に努める。	子育て支援課
56	家庭教育学級	子どもの健全な育成を支援するため、児童・生徒をもつ親に対し、家庭教育の重要性を再認識するとともに、必要な知識と技術について学習する機会を提供します。	継続	市内27小学校 参加人数1,032人	32小学校中27校開設で、昨年度と開設数は変わらないが、参加者数としては178人増加した。 また、未開講の5校中、2校区に対して、親まなびサポーターを活用した親まなびおでかけ講座を実施し、23人の参加があり、家庭教育支援として実施できた。	引き続き全校開設をめざし、家庭教育学級の重要性・必要性を認識してもらうよう呼びかけるとともに、未開設校に対して、親まなびサポーターを活用した事業の実施を検討する。	地域教育振興課 (現:社会教育振興課)
56	保護者講座	思春期の子どもをもつ保護者の不安や悩みに応じた講座を実施します。	継続	<対象>主に小学生～高校生の保護者 開催回数 全3回 参加人数 延べ105人	参加人数は前年度比50人増加した。昨年度の参加者アンケートを参考にテーマの選定、企画を行い、結果として参加者数の増につながった。引き続き、参加対象である保護者の課題・ニーズの把握に努める。	今後もアンケート結果を反映し、参加しやすい日時の設定、参加者にとってより有益なテーマ設定に努める。	地域教育振興課 (現:社会教育振興課)
56	家庭教育セミナー	家庭の教育力向上を支援するため、家庭教育ノート等に基づき、家庭において保護者が子どもに接する態度・方法などを学習する機会を提供します。	継続	<対象>主に就学前～小学生の保護者 開催回数 全3回 参加人数 延べ67人	参加人数は前年度比24人増加した。昨年度の参加者アンケートを参考にテーマの選定、企画を行い、結果として参加者数の増につながった。引き続き、参加対象である保護者の課題・ニーズの把握に努める。	今後もアンケート結果を反映し、参加しやすい日時の設定、参加者にとってより有益なテーマ設定に努める。	地域教育振興課 (現:社会教育振興課)
56	ブックスタート	絵本を介した親子のふれあいのために、4か月健診を受診する子どもを対象に、絵本を配付します。	継続	こども健康センターで4か月健診を受診する子どもを対象にブックスタート(4種類の絵本から1冊差し上げる)を実施した。 年度36回、各図書館で随時、 年度絵本配布数 2,718冊	絵本を介して親子のふれあいを持ってもらい、読書の大切さを知ってもらう機会となった。	絵本の選定などを工夫し、事業を継続し、読書推進に取り組む。	中央図書館

基本目標 1. すべての子育て家庭を支える環境づくり	主要課題 (2)子育て支援ネットワーク化の推進	施策の方向 ②子育て相互支援活動への支援
----------------------------	-------------------------	----------------------

「施策の方向」の評価

人材育成の研修については、内容や回数、開催時期の見直しにより参加者が増加していることから、募集人数や対象施設の検討が求められる。子育て支援団体のネットワーク化については、昨年度すべての地域に子育て支援団体連絡会を立ち上げた。しかし、会議の構成団体や、全体をつなぐ親会議の開催について検討が必要である。また、民生委員・児童委員、主任児童委員活動の支援について、「福祉まるごと相談会」の相談会場の増設と利用促進に取り組む必要がある。

茨木市次世代育成支援行動計画(後期)掲載内容							
掲載ページ	事業	内容	行動目標	平成24年度の取り組みと実績	平成24年度の取り組みと実績の評価 (効果及び課題)	今後の改善方法	担当課
57	ファミリー・サポート・センター【再掲】	地域で育児の手助けをしてほしい依頼会員と手助けをする援助会員の相互援助活動により、仕事と子育ての両立を支援します。	継続	説明会51回(うち出張説明会3回)参加者324人、個人説明6人、1日コース13回 講習会28回 参加者267人(うち出張講習会3回) 研修会6回 参加者157人 交流会7回 参加者151人 活動件数 6,433件 新規依頼件数 211件	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの更新により、より多くの市民が入会しやすいよう情報提供を図った。それにより、ホームページを通じての問合せや申し込みが目立った。 広報「いばらき」による告知を考慮した入会説明会日の設定をし、市民が参加しやすいようにした。結果、広報誌配布後の申し込みにも、定員に達してお断りすることなく受け付けることができ、参加につながった。 会員整理(開設当初からの休会者対象)を行い、稼働会員の把握につながった。しかしながら、援助、両方会員の登録者が大幅に減少することにもなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修会や北摂各市との情報交換会等へ出席することにより、コーディネーターの資質向上を図り、依頼会員と援助会員との丁寧なマッチングに努める。 会員整理における、援助・両方会員の大幅な登録者数減を受け、最も効率の良い情報発信ツールを使って広報活動を進めるうえで、入会意欲が増すようなチラシ作成や、魅力ある研修及び交流会を打ち出す。 	子育て支援課
57	子育てサークル・グループ支援	子育てサークルやグループを対象に、子育てサポーターの派遣やおもちゃの貸し出し等を行います。	継続	サポーター派遣 28件 おもちゃ貸出 70件	おもちゃ貸出のちらしを配布。 おもちゃの貸し出しを子育て中の親子から、子育てを支援している団体にも貸し出せるよう拡充した。	継続して実施する。	子育て支援課
57	子育て支援団体のネットワーク化	子育て支援総合センターを中心に、地域における子育て支援活動団体のネットワーク化を推進します。	質的・量的充実	中央地区 年間5回の連絡会実施 年間4回のリーダー会実施 北地区 年間4回の連絡会実施 南地区 年間10回の連絡会実施 西地区 年間5回の連絡会実施 東地区 年間10回の連絡会実施	市内全域に子育て支援団体連絡会が立ち上がり、それぞれのペースで進んでいる。南地区、東地区はエリアが広いためそれぞれ3つの小さい会議を持ち年1回総会を開いて地域全体の交流を図っている。会議を重ねることで団体構成メンバーのつながりが密になり、お互いを手伝いあう地域もあれば、なかなか会議の主旨を理解してもらえず、足踏み状態の地域もある。会議の構成団体の再考が必要。各エリアで年間行事カレンダーなどを製作した。	継続して実施する。 地域によって進み方が違うので、全体をつなぐ親会議の開催を考えていく。	子育て支援課
57	子育て支援の人材育成	地域における子育て支援活動の活性化を図るために、その中心となる人材を育成する研修を実施します。	質的・量的充実	子育て支援団体スキルアップ連続研修 7月5日～9月18日(5回) 1回目 81人 2回目 84人 3回目 45人 4回目 29人 5回目 25人	実技以外に体験型の研修も実施し、年度前半に開催をした。 より多くの支援団体に研修を受けてもらえるよう募集人数を多くしていたが、後方から見えづらいう等の意見があり 部屋と人数の検討が必要。	実技研修は受講人数に制限があるため、開催回数を増やす等工夫し、継続して実施する。 研修を受ける機会の少ない支援団体を中心に研修を行う。	子育て支援課
57	子育て支援関係団体との協働によるイベントの開催	子育て支援に関わる団体や機関との連携・交流を促進するために、協働でイベントを開催します。	質的充実	いばらきkoko(子育て・子育て)フェスティバルを開催 参加者数 1,411人	ローズWAMでのイベントは、従来の人形劇とコンサートを行った。25年度も3日間で実施予定。 場所についてはローズWAMでの3日間開催も検討する。	継続して実施する。	子育て支援課

茨木市次世代育成支援行動計画(後期)掲載内容							
掲載ページ	事業	内容	行動目標	平成24年度の取り組みと実績	平成24年度の取り組みと実績の評価 (効果及び課題)	今後の改善方法	担当課
57	民生委員・児童委員、主任児童委員活動の支援	民生委員・児童委員、主任児童委員による児童に関する相談・指導助言等の活動を支援します。	継続	相談・支援件数 10,563件 ・うち子どもに関する相談・支援件数 3,487件 福祉まるごと相談会 相談件数 613件 ・うち子どもに関する相談件数 10件	民生委員・児童委員及び主任児童委員による相談・支援の総件数は、H23年度と比べて約4%減少しており、うち子どもに関する件数も約11%減少している。民生委員・児童委員を中心に、地域の福祉に関する相談を小学校区の公民館等で実施する「福祉まるごと相談会」は、H23年度から取組をはじめ、H24年度には新たに7か所を開設した(市内9校区で開設済)。健康や介護などに関する相談が多く、子どもに関する相談は少ない。相談会場の増設と利用促進が課題である。	福祉まるごと相談会の未開設地区に働きかけ、H26年度末までに全32小学校区での開設を目指す。	福祉政策課
57	こども会等の指導者の育成	子どもの健全な心身の育成を進めていくために、こども会等の指導者の育成や資質・指導力の向上を図るため、研修を実施します。	継続	市全体のこども会を対象とした行事に向けての、育成者への指導者研修・講習会を実施した。 キックベースボール実技講習会:11人 こども会育成者研修会(百人一首):20人	参加者数は、昨年度とほぼ同様であり、キックベースボールや百人一首の指導方法を学ぶ機会を提供することができた。	継続して実施する。	青少年課
57	家庭教育学級指導者の研修	指導者の認識、資質の向上を図るための研修を実施します。研修内容、形式、講師の選定等について、より効果的な研修成果が得られるよう工夫します。	質的充実	開催回数 全2回 参加人数 延べ89人	実施回数は前年度比1回減、参加者数は前年度比31人の減であった。内容については、例年「会議の進め方」をテーマとした研修が好評であったため、平成24年度についてもファンリレーションスキルを取り入れた同テーマで実施し、講師をかえることで、新たな視点を取り入れた講座となり、学級運営に活かせる等好評であった。引き続き、参加者のニーズの把握に努める。	今後も、アンケート結果を反映し、学級運営に役立つ内容の企画に努める。周知に努め、全学級から参加者を募る。	地域教育振興課 (現:社会教育振興課)